

2010年6月16日(水)勉強会まとめ

哲学コース 3年 想田 瑞恵

○対等とはどういうことか

気持ちを配慮しあう関係においても、いわゆる「上から目線」は嫌悪され、あらゆる格差などないかのように振舞う。しかしこの「対等」は、対話の原理である対等とは違い、「囲い込まれた枠の中でみんなが同質である」と確認するための言葉である。この「誰もがオンリーワン」という「対等」は、『みんなが特別である（ダイヤの原石たる個性を持っている）』という暗黙の了解を壊すな、「ダイヤの原石が少しくらい磨かれたからといって調子に乗るな、抜け駆けをするな」という、卑怯な弱者の薄ら寒い叫びなのだ。本当は、自分こそがオンリーワンであるよりナンバーワンでありたい、あわよくば優位に立ちたい（責任を伴わない限り）と思っているのだが、自分が格下になりたくないばかりに、「対等」を装うのではないか。対話の原理である対等は、「そもそも感受性に優劣などない」というもののなので、方向性がまったく異なっている。

○「そのままの君がすばらしい」とは、何をさせる言葉か

この言葉は、個性を見つけられず苦しむ人への緊急避難として使われる。「そのままの君がすばらしい個性（ダイヤの原石）の持ち主だ」と言ってもらい、「君は偉いんだぞ、価値があるんだぞ」と、承認してもらおう。しかし、自分の中に個性などないのだから、それを求める人にとっては、日々が緊急事態である。ゆえに、「君にはキラメク個性がある」と「あるがままの君でいい」をセットで用い、そうした個性や、個性の持ち主である「あるがままの私」を傷つけないように配慮するのは、当然の義務である。そして、この契約は無条件に肯定されるものだと思い、他者と関わり親密さを築こうとする。もし差異が対立にまで発展しそうになり、キャラ化でも回収できなくなれば、相手を異物とみなし、「対等な」人間として扱わない。この人間関係は一種の取引であるから、承認とか特別な個性といった見返りを得られない相手と、関係を持つ必要はないのだ。

○対話のありかた

承認や特別な個性は、上記のような「優しい」コミュニケーションでは決して得られないため、行き詰ってしまう。そこで、「代わり」に対話なのである。だが、承認されよう、個性を見出そうとして対話を試みても、対話にならない。対話はもっと実践的な、プラグマティックなものであり、その場の話題に興味があり、疑問を投げかけ展開していく、理解のためのものなのだ。その際に用いる言葉が自分の実感をこめたものであるため、それに反応されることが自己の承認へとつながるのだが、話題よりも自己の承認に興味があつては、対話になるわけがないのだ。これでは、場の沈黙は自分の無視に、否定は承認されなかったという落胆に、肯定は「次も同様のことが言えなければ承認されないだろう」とい

う不安あるいはプレッシャーにつながってしまう。承認を得る「ため」の関係が、「優しい関係」のみだったのが、「対話で築く関係」のみに変わっただけなのである。おそらく、私
が対等を要求し対等の確保を訴えるのも、「他者による承認」というメリットを始めから求
めているため、「承認も得られず逸脱したという事実だけが残る」という損をした、バカを
みた状態を避けたいからであろう。

※ちなみに、朝日新聞の書評にもあった、サンデル著『これからの「正義」の話をしよう』
の副題は、「いまを生き延びるための哲学」です。

○承認を渴望する人（むしろ私）に何を言うべきか

「自分の気持ち至上主義者」は、毎日がアドベンチャーです。他の人にはおそらく何でも
ないようなこと（大学の掲示板を見たり顔見知りとすれ違ったり）でも、彼らにとっては
大冒険。幻の宝物は、承認、あるいは個性です。そんな刺激的な毎日を送ってみたいはあ
りませんか？疲れることうけあいなので、おススメはしませんが。もし、すでに大冒険に
参加していて、それにくたびれうんざりしているなら、やめてしまったっていいんです。
しょせん承認をめぐる冒険はバーチャルゲーム。仮想の契約（優しい関係の維持）であり、
仮想の敵（異物）にすぎません。それでも承認を求めてしまうなら、とっとと働けばいい
でしょう。あえて強く言うなら、「承認を求めるな、さもなくば労働に従事せよ」です。仕
事に「自己実現」なんてものを求めるから、ねっとり個性や承認が自分に絡みつくの
であって、私はもっとドライに生きられるはず。それこそ、「お金のため」に働けばいい。「自
己実現」なんてものをもち出すから、「それで生きているという実感が持てるの？」や、「何
のために生きているの？」という問いが出てしまう。自立のため、食べるために働くでい
いはずなんです。というよりも、それが本来の労働の姿でしょう。承認を求め足掻く悩み
が、切実な叫びでありながら、どこか滑稽で軟弱な気がするのは、大学生の座に胡坐をか
いて、モラトリウムを満喫しているからでしょう。もちろん、承認を求める痛みや苦しみ
は本物ですから、「贅沢な悩みだ」と言われて解消されるものではないです。ただ、そうし
た側面は否定できません。けれど、ひとつ自分をフォローしておくなら、「このままでは駄
目なんだ」という知識が増えた分、過去の自分、すなわち「駄目になる要素・行き詰る要
素」を抱えた自分よりも、今のほうがマシではないか、と思えることです。承認を渴望す
ることはやめられないけれど、この勉強会を経た自分は、それが行き詰る理由の一つだと
知っている点において、前の自分よりもマシになっているだろう、よくなっているはずだ
と思っています。参加してくださった方々に感謝をこめて。お疲れ様でした。